

2005年1月20日

各 位

中外製薬、米ゼンコア社と技術導入契約を締結

中外製薬株式会社〔本社：東京都中央区／社長：永山 治〕（以下、中外製薬）はこのほど、米国ゼンコア社〔Xencor Inc.：米国カリフォルニア州／President & CEO：Harry Stylli, Ph.D〕（以下、ゼンコア社）との間で、抗体を改良する技術について導入契約を締結しましたので、お知らせします。

ゼンコア社は、抗体分子の“Fc”と呼ばれる領域のアミノ酸配列を変えることで、がん細胞を殺傷する作用を向上させる技術（以下、XmAb〔エクスラブ〕技術）を有しています。中外製薬は、このXmAb技術が、がんをターゲットとする抗体の治療効果を高めることが期待されると同時に、投与量を低減させることによる患者さんの副作用の緩和、製造コストの低減等についても期待できるとし、導入を決断しました。

中外製薬は、この技術導入契約により中外製薬が所有する抗体にXmAb技術を適用し、その効果を評価することになります。なお、当該の抗体について優れた効果が確認された場合には、新たにライセンス契約を締結することになります。

中外製薬は、抗体研究にこうした最先端技術を積極的に取り入れていくことを通じて、より安全で、より効果の高い医薬品の創製に挑戦し続けます。

以上

ゼンコア社について：

米国カリフォルニア州モンロビアに1997年に設立されたバイオテクノロジーベンチャー企業。コンピューターによる独自の蛋白デザインの技術を保有し、これを応用してがん、炎症、自己免疫疾患の治療を目的とした治療用蛋白の探索と開発を行っています。